

## 〈(2)-8〉

<b>主体者/ 連携・協力先</b>	<b>長崎市LRTナビゲーション推進協議会/ 長崎県、長崎市、五島市</b>
<b>取り組み名称</b>	ドコネ
<b>取り組みポイント</b>	■ (1) 地域交通の取り組み ■ (2) 情報利活用の取り組み ■ (3) 生活基盤への取り組み
<b>取り組み課題</b>	路面電車低床車両位置情報提供サービス、路面電車利用者ナビゲーションサービス

## 〈取り組みの概要〉

長崎県立大学、長崎電気軌道株式会社、扇精光株式会社、長崎市、長崎県、長崎河川国道事務所による長崎市LRTナビゲーション推進協議会の提案が、国土交通省「平成23年度ユニバーサル社会における歩行者支援現地事業」に採択され、同年10月より「ドコネ」としてサービス開始。「どこね」とは長崎ことばで「どこですか」「どこにいますか」という意味で、幅広い世代の長崎市民や観光客に親しんで頂けるようにと命名された。

ドコネは低床車位置情報提供、バリア情報提供及び乗車予約、観光情報提供の3モードでサービス開始。現在は路面電車に結節する長崎市内5系統の乗り合いタクシーの位置情報も提供。

サービス開始後の増強策として、長崎電気軌道は全線に光ファイバー網を敷設。ITS世界会議2013東京においてブース及び遠隔ショーケースとして出展。長崎市内を走行中の路面電車車内から長崎県立大学の学長が学生撮影スタッフを率いてメッセージを発し、東京ビッグサイトへインターネット経由で動画の生中継を成功させた。

ドコネは、平成21～26年度に五島列島において展開した電気自動車とITSインフラによる未来型観光サービス「長崎EV&ITS」のスピナウトでもある。「バッテリー状態モデリングシステム」(協和機電工業株式会社との共同研究)では五島市三井楽町を、「長崎県超小型モビリティ利活用検討会」(五島市)では五島市久賀島をそれぞれ走行中の電気自動車の位置情報を「ドコネフレーム」として提供した。28年度は五島市奈留島の世界遺産候補「江上教会」を通過する路線バスの位置情報を提供して二次離島巡礼者へ移動の利便性を向上させた。

平成26～28年度には、総務省戦略的情報通信研究開発事業(SCOPE)の研究課題として採択され、長崎電気軌道の営業路線全停留所(上下線別ID)、全車両(前後運転台別ID)にBluetoothLEビーコンを設置。平成29年3月、乗換案内や行先別誤乗車防止を可能とするスマートフォンアプリ「ドコネナビ」をリリースした。

## 〈取り組みポイントについての具体的説明〉

## (1) 地域交通の取り組みとして

路面電車と乗り合いタクシーという二つの公共交通に関する位置情報等を提供している。通常の低床車両位置情報提供のみならず、平成28年度は長崎電気軌道が運行した「がんばれ熊本号」のアイコンを表示し、長崎市民の熊本地震被災者支援活動の一助とした。この他、長崎電気軌道所有最古車両168号車や水戸岡鋭治氏デザインによる特別車両310号「みなと」運行時には独自アイコンを表示して観光客や鉄道ファンのために情報提供を行っている。

## (2) 情報利活用の取り組みとして

国交省事業として出発したため、長崎電気軌道の全停留所は歩行空間ネットワークデータとして整備されている。これによって、緯度経度が電子地図上一意となっているのみならず、特定観光スポットまで車椅子での利用に最適ルートを表示できる。また長崎市より提供された詳細な機能別バリアフリートイレの位置も表示している。このバリア情報提供モードは、乗車意思表示と連携して低床車両を利用するお手伝いを必要とする方々の利便性向上を図っている。さらに長崎河川国道事務所より街の「旧通り名」などのデータを提供して頂き観光情報とした。ドコネ画面から河川国道事務所提供の渋滞情報へリンクするボタンを常時表示している。

## (3) 生活基盤への取り組みとして

ドコネは県庁所在地の中心街を走る路面電車を中心としたサービスではあるが、離島で展開した長崎EV&ITSとの深い繋がりがあり、二次離島を含む五島市各地における社会実験等の機会にモビリティの位置情報を提供している。また、長崎EV&ITSにおいて観光コンテンツの収集には地元高校生をワークショップに招き意見を取り入れていた。その高校生の一人は県立大に進学し、前述世界会議生中継の際にメインカメラを操作し、ドコネのプロモーションビデオを作成している。この他、毎年観光イベントや電車イベントの際にまちの方々から直接利用意向を伺うなど、長崎EV&ITSからドコネでも地域社会への浸透を図る試みを続けている。

## \* ITSシンポジウム・ITSアジア太平洋フォーラム・ITS世界会議におけるドコネ

ITSシンポジウムにおいては、平成23年以来連続してドコネの試みを報告する論文を投稿し、対話セッションでポスター発表を実施している。このうち、平成23年度と平成28年度にはベストポスター賞を受賞している。ITS世界会議では、2013東京(平成25年)でブース展示(長崎県立大学)、論文発表に加えて、遠隔ショーケースとして長崎市内を走行中の路面電車から東京ビッグサイトまでの生中継を実施した。以降、論文発表を続けている。

ITSアジア太平洋フォーラムには、平成29年(香港)から論文発表を行う。なおITSAP2018については、九州内ITS推進団体の一員として2015年から福岡誘致活動に参画し、オール九州によるフォーラム実現のために積極的に協力している。

## \*ドコネご利用方法

Webサービスとしてのドコネは、世界のどこからでもご利用いただけます。

<http://www.otter.jp/naga-den/> (パソコン、ガラケー、スマホ自動認識)

